

MISAI KUCHING ミサイクチン



オルトシフォン(英名 *Orthosiphon aristatus*)

植物の使用部位: ハーブの地上部

従来の用途

マレーシアとインドネシアの伝統的な文化では、このハーブは数世紀にわたり「腎臓のお茶」として利用されてきました。その利尿作用がおだやかで安全なことから、腎臓のトラブル、関節炎の不快感、高血圧に対し、数々の処方でも用いられていました。

非常に効果的であったので、オランダ人が植民地時代にハーブをオランダに持ち帰り、ヨーロッパで広く栽培し、そこで現在では多くの薬局方に登録されています。

この植物は、抗炎症薬、抗アレルギー薬として、また動脈硬化症(毛細血管および循環器疾患)や腎結石に対する治療法として有用であるとも考えられていました。

化学成分

シルシマリチン、ミオイノシトール、オルトシフォン、ピリオン、ラムナシン、サルビゲニン、カロチン、カロチノイド、精油、フラボノイド、グルコシド、糖蛋白、サポニン、テルペノイド。

科学的研究

オルトシフォンは関節炎の症状に対し、安全かつ有効なハーブによる利尿作用と抗炎症作用があることが判明しています。

この植物は、利尿過程で身体から失われた分を補充できるカリウムを豊富に含んでいます。抗菌性および抗真菌性の特質は分離されています。複数の臨床試験で、この植物の腎結石の治療に対する抗結石作用も確認されています。

医薬用途

- § 関節炎の症状の治療の補助
- § 腎結石
- § 腎臓経由での酸性物質の除去の促進に、また解毒プログラム的一端として

<学術名>

orthosiphon aristatus

<マレー名>

MISAI KUCHING (ミサイクチン)

<日本名>

クミスクチン

<英名>

cats whiskers (猫の髭・ネコのヒゲ)

<インドネシア名>

Java tea (ジャバティー)

<アールベール名>

tulasi

<飲まれ方>

- ・免疫力・関節
- ・デトックス・冷えむくみ
- ・抗酸化力
- ・発熱や身体の痛み
- ・咳やかぜ
- ・神経系強化・ストレス緩和



オルトシフォン プラス

関節炎の症状の多くは疼痛、うずき、こわばりを伴います。リウマチや痛風などの疾患では、筋肉および関節内に酸性物質や代謝老廃物が蓄積されます。関節周りの血行が低下すると有痛性の腫脹をまねき、やがては関節破壊にいたることがあります。

現代の生活におけるさまざまな要因は関節炎の症状を悪化させます。赤身肉の過剰摂取は尿酸の高値をまねきます。その他の酸性の飲食物には、甲殻類、コーヒー、アルコールなどがあります。人工食品添加物のほかに、精製食品や加工食品、白砂糖、小麦粉はいずれも老廃物の蓄積につながります。ほかの要因には、ストレス、運動不足、関節可動性の低下があります。

シンプルなライフスタイルへの変更と併せて自然の治療法を採り入れることにより、関節炎の症状の改善が大いに得られます。オルトシフォン プラスは、排出作用を改善し炎症や不快感を抑制することで、安全かつ非抑圧的なアプローチで関節炎の症状を扱います。

オルトシフォン プラスの配合ハーブの作用は次の通りです。

- 関節のこわばりや炎症を軽減
- 酸性物質や老廃物の除去能力の向上
- 関節炎、痛風、リウマチの治療を補助

